

## 若者が地域農業支える！ ～七ヶ宿に帰郷8年 八島徹也さん 水稻生産農家に～

八島徹也さん（33歳）は「若者が地域を支えなければ」という熱い思いから、2010年に故郷の七ヶ宿に戻った。

自然環境を生かした米づくりをするため、(農)ライスファーム七ヶ宿で研修生になり農業を学んだ。「始めた頃は雑草との戦い。毎日の肥培管理が収量へと繋がり、試行錯誤の連続だった」と話す。

農業経営改善計画などが認められ2013年に認定農業者となった。その後、2017年には研修先の法人に加入。今では個人でも水稻を7.5ヘクタール作付する農業者へと成長した。

近年、同町では農作物の鳥獣被害が増加し、主にイノシシやサルの被害防止対策としてワイヤーメッシュと電牧線を組み合わせた防護柵の設置を町内全域で進めている。

町の担当者は「高齢化が進む町で、若手の八島さんは防護柵の設置にも意欲的に取り組み、まさに地域を支える担い手として期待されている」と語る。



今後、八島さんは法人での仕事を主軸として、町のブランド米生産グループの七ヶ宿源流米ネットワークの活動の中で、「七ヶ宿源流米」ブランドの定着と販路拡大を進めながら、地域農業の発展に繋がる活動に取り組む考えだ。

【記事提供：七ヶ宿町農業委員会】